

令和5年度 第1回桐生市環境先進都市将来構想推進協議会 議事録

1. 日時

令和5年6月21日（水）午後6時30分から午後8時40分まで

2. 場所

美喜仁桐生文化会館 4階 第一会議研修室

3. 出席者

(1) 委員（14人）

会 長：天谷 賢児〔群馬大学大学院理工学府 教授〕
副 会 長：近藤 圭子〔きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長〕
委 員：西菌 大実〔群馬大学共同教育学部 名誉教授〕
藤生 五郎〔桐生商工会議所 副会頭〕
茂木 理亨〔桐生商店連盟協同組合 副理事長〕
星野 宏之〔新田みどり農業協同組合 常務理事〕
新井 悠大〔桐生広域森林組合 業務部部長〕
佐羽 宏之〔2015年からの生活交通をつくる会 会長〕
小島 由美〔未来創生塾 副塾長〕
今泉 芳雄〔桐生市家畜自衛防疫協議会 監事〕
坂本 久美子〔桐生市女性人材リスト（農業委員・花き栽培）〕
中野 久美〔桐生市女性人材リスト（建築設計）〕
村上 恵理〔桐生瓦斯株式会社営業部 次長兼特需課長〕
(欠席者) 根津 紀久雄〔特定非営利活動法人北関東産官学研究会 会長〕

(2) 事務局（5人）

関口 市民生活部長
高橋 環境課長
金子 環境都市推進担当係長
高橋 主任
古泉 主事

4. 議題

- (1) 桐生市環境先進都市将来構想について
- (2) その他

5. 議事要旨等

(1) 委嘱状交付式

荒木市長より出席された委員へ委嘱状を交付した。

(2) 会長及び副会長の選出

会長及び副会長の選出については、会長に天谷委員が互選され、副会長に近藤委員が指名された。

(3) 桐生市環境先進都市将来構想について

令和5年度桐生市環境先進都市将来構想実施計画の説明、及び桐生市環境先進都市将来構想推進協議会『ゆっくりズムのまち桐生』ワーキンググループの活動報告を行った。

(4) その他

第2回協議会の日程についてお知らせ：令和5年10月予定

6. 委員意見（質疑応答）

（会 長）

これまでのワーキンググループの取り組み状況について、事務局の方でとりまとめていただいた。サルビアの植栽については、前回委員ご提案の5月に実施されている市民一斉清掃時に行うようご意見があったが、植える時期とのタイミングが合わなかった。今年度は、4月のアースデイin桐生にて来場者に種の配布を実施し、5月末からは事務局で種から育苗を行っている。

本日は、本年度の実施計画への意見及び、去年までのワーキンググループでの事業を今後どのように展開していくか、また、新たな取り組みに対するご意見をいただきたい。

本年5月には桐生市がSDGs未来都市に選定されたので、事業に今後予算付けがされると思うが、これらについても考えていきたい。

（委 員）

『ゆっくりズムのまち』のタイトルが気に入っている。桐生市内外に広めていくため、商標登録をしてはどうか。ほかの市町村に取られないような手立ても必要と感じる。

（事務局）

他に真似されないような手立てを研究検討させていただきたい。

（会 長）

前橋市はスローシティとしてイタリアから認定されている。桐生市が『ゆっくりズムのまち』を認定することもできると考える。

（副会長）

『ゆっくりズム』のりズムの「り」の表記は、ひらがなかカタカナか。

（会 長）

ゆっくりという言葉と、イズム（主義）という言葉が混ざって『ゆっくりズム』となった。ゆっくりイズムなので「り」はひらがなである。

（会 長）

『ゆっくりズム』のロゴマークについて、ロゴを作っているいろいろな活動に使ってほしいという意見が前回あった。ずっと活動をしていくことによって認知されていくと思う。しっかりと設計しないとほかのまちに取られてしまう恐れもあるので議論していきたい。

（委 員）

SDGs未来都市の選定において、『ゆっくりズム』ということでスローガンが取り上げられたことは当協議会の一つの成果であると感じる。表題を掲げることでみんなに共有が図られ雰囲気を作り出され中身ができてくる。

先月しまなみ海道へ行った。本州の入り口は尾道であるが、人が多くて『ゆっくりズム』ではない。反対側の今治の雰囲気がとても良かった。人口は14万人と桐生より多いが徐々に減ってきているようだ。タオルのまちなので桐生の織物のまちと似ている。名物も焼き鳥があり、桐生のソースカツ丼や、ひもかわうどんのように似ている。今治は、まち中より島の方が雰囲気が違って良い。また、全国で移住したいまちナンバーワンのようなのである。時間がゆっくり流れていることが重要と感じた。たまたま入ったカフェで話を聞いたところ、移住者が多いことがわかった。外部から来た人の方が、地域の良さの認識をもっていると思う。桐生にいと当たり前のことも、外から見ると魅力的に見えると思う。今治と桐生は、海か山か地勢が違うだけである。環境的には似ていると感じる。発信の仕方がとても重要であると思う。今治は、島と島が橋でつながっている。桐生は、わ鐵や上毛電鉄など電車につながっている。桐生には魅力的な交通機関がある。この辺の整理がロゴマークづくりとできれば良いと感じる。

SDGs 未来都市の提案書に移住のことが書いてある。有機的につながってくると『ゆっくりズムのまち桐生』の看板を掲げた意味が出てくると思う。その点今治はうまくできていると思う。

(委員)

サルビアはどれほどの量を確保しているのか。また、どこへ配布するのか。

(事務局)

約3,000株を現在育苗している。配布先として先行して公共施設を考えている。また、商店街や駅周辺でご協力いただきたい。

(委員)

桐生八木節まつりが今年再開するため、商店街でサルビアを植えてPRしていきたい。

(委員)

天神町3丁目の集会所は、毎年2回花壇に花を植えている。今年も5月に町内の子供達を呼んで、花壇の手入れをおこなった。その中で、サルビアを配布してもらえると町会の集会所の周りに植えることができると思う。

(会長)

事務局の方でどこにどれだけ植えるか具体的な案を作っていただきたい。

(事務局)

管理の問題がネックとなるので、協力を得られるところを検討しながら案を作りたい。

(会長)

植える場所に『ゆっくりズム』やサルビアが桐生市の花である説明書きがあるとよい。

(事務局)

簡単な作りになるが、ラミネートで表示を作っていきたい。

(委員)

環境先進都市にしなければならない理由は、環境負荷を最小限にすることや、様々な街談を受けないことにより、まちとして持続可能な生活ができる地域にすることが大事であると思う。

『ゆっくりズム』の究極の目的は、『ゆっくりズム』に転換することで、地域が自立して生き残ることができるようになることだと思う。ところが、スローモビリティ・スローライフのまちと言っているが、スローモビリティを取り入れているのは桐生以外のまちである。発祥の地である桐生は影が薄くなってきている。具体的に市民が参加するような形をストーリーとしてきちんとつくらないといけない。花を植えているうちに終わってしまう。市民がもう少し参加しなければならないと思うような危機感を煽るようなことが必要と感じる。今、電気代が上がってきているが、今後は、エネルギーを日本に売らなくなるような話にならないこともないと感じる。将来構想には、再エネが大量に導入されたまちに、木質バイオマス発電所の整備の項目がある。桐生市内の電力をどれだけ賄うことができるか、具体的に議論を進めていくことで、市民に危機感をもたせることが、この協議会で重要な役割と感じる。秋には公共交通の法定協議会ができる。わ鐵や上毛電鉄の経営が難しいから運行をやめましょうというような具体的な話をする段階がくる。そのようになった時、きちんと社会のインフラとして地域が上毛電鉄やわ鐵を位置づけられるのか。乗らないと何ともならない。実際に市民が利用できるように生活スタイルを転換できるようになるか、きちんと協議していくことが必要と感じる。これらは、交通ビジョン推進室がやることではあるが、環境や総合計画の中できちんと位置付けられていかななくてはならない。環境先進都市とした桐生ができるのかどうか非常に重要なポイントであると感じる。きちんと計画的に進めていかななくてはならないと思う。

(会長)

地域が生き残らなくてはならないことは重要と感じる。まち歩きや花を植える取り組みを行っていく一方で、『ゆっくりズムのまち』を早くつくらなくてはならないと感じる。

環境先進都市の会議だけではなく、交通ビジョンや、総合戦略などと連携できることが必要と感じる。その一つとして、企画課のSDGs未来都市で横串を刺してとりまとめられていると感じる。もう少しビジョンを描いて予算をかけ、イベントなどの実施を進めていくことが必要と感じる。

(委員)

街路樹の剪定を行っている桐生市発注業者が、委託料をもらっているにもかかわらず、剪定した枝などを自分のところで加工し、商品にしてお金に換えていると聞いたことがあるが、業者にあげるのではなく、薪ストーブを使っている市民などのお宅に配布するようなことはできなのか。

(事務局)

詳細は分からないが、街路樹の剪定は低木のつつじが多く、枝葉が多いと感じる。

切った木は基本的には一般廃棄物となるため、清掃センターへ持ち込んで処分する法律となる。枝を薪ストーブに利用するのは難しい。市の発注では廃棄物としてみている。業者がもらって誰かにあげてしまうのは難しい。

(委員)

市発注業者ではないかもしれないが、大きな木を切った際に棄てるのではなく活用できないのか。

(副会長)

桐生商業高校裏の河川において、木を伐採した際に配布を行った。河川の木を伐採をすると他市から結構貰いに来る。川づくりネットワークと国土交通省で実施した。市民に向けて桐生タイムスで周知した。1回でははけなかったが、2回目ではけた。無料配布は、桐生タイムスのように目にしないとわからない。桐生市内でも大きい木は他でも配布を実施していると思う。

(会長)

バイオマス発電として、市内の材木だけでエネルギーが賄えると思う。

(委員)

桐生の梅田地区に桐生木材ヤードがある。この地域で採れた材は一度ここに集められる。各製材所やバイオマス発電所に送られる。私たち森林組合は、基本的に建築用の木材をつくっている。端材の部分は、バイオマス発電に利用される。桐生市にはバイオマス発電所が無いので、佐野市や前橋市の方に供給している。

(会長)

材木をエネルギーとして使うのは、トン/円の世界であるためコストがかかる。

(委員)

バイオマスとしての材として山から降ろすと手間がかかるため、コスト的には難しい。

(会長)

1回できたものを材として付加価値をつけ、その後、みんなが使って廃棄されるときにバイオマスとして使うなど、そのような仕組みを作ることが重要と感じる。

(委員)

街路樹剪定も森林組合が請け負っているが、市の清掃センターへもっていく。

個人の屋敷周りも伐採することはあるが、量が多いため一般の人に配布するのは難しい。また、安全上の問題で、むやみにチェーンソーで木を切るのは危ない。

(会 長)

仕組みとしては、木を切った後に植林すれば循環して良いと思う。

エネルギーを使う側も、桐生ガスを使った方が便利で良いが、木を循環する仕組みが市内できているとなれば良いと思う。そのような議論を1年かけてやるのも良いと思う。

(委 員)

廃棄物となってしまうと法律にふれてしまう。桐生では、木を切ったものは廃棄物ではないとするなど考え方を変えていかないとできないと思う。

ペレットストーブ・薪ストーブを使う生活より、桐生ガスを使う方がずっと楽である。桐生で薪ストーブ生活をしている人が多くなると、ガス利用者が少なくなることにより、供給が止まってしまい生活ができないとなってしまう。

そうならないように桐生ガスを使わない市民が半分いるなど、そういうまちにするのがこの『ゆっくりズムのまち』の重要な部分であると思う。

(会 長)

インフラとして桐生ガスがあり、電気がある。配給されるインフラがある。

今年のテーマとしてバイオマスについて考えていきたい。群馬大学では、バイオコミュニティを立ち上げようとしている。うまくコミュニティを連携して最適にバイオマスを使っていくことを研究していく。

今年のテーマとして、街歩きとサルビアの他にプラスとして、まち全体を見て、今後生き残れる地域としての取り組みが実施できれば良いと考える。

(委 員)

桐生に住んでいる人が他市で資金が流出してしまうようなことのないようにするのがとても重要と感じる。

ナローモビリティ生活をしているが、市内で何台もナローモビリティが動いているとすごいと思う。それがもう少し生活に浸透して、もっと人目に触れるようなものにしていくと転換していく可能性がある。最近、自宅から伊勢崎にある工場へ向かう途中で、ナローモビリティとすれ違う。ナローモビリティを好んで買っている人がいる。以前、川村先生の話で世の中の5%の人が使い始めると普及していく話があった。群馬大学でも本格的に実験をしていくと、下地をつくることとなると思う。『ゆっくりズムのまち』でも重要な要素である。実験として見える化していくと良い。電源も普通のコンセントで良いので、協力してくれる店舗など充電ステーションを作っていくのも大事と感じる。

市役所でもナローモビリティ専用の駐車場を設けると良いと思う。車で行くと停める場所がない等クレームが出るが、乗り物を変える視点が重要と感じる。また、優先スペースを作ることも大事だと思う。

(会 長)

交通の関係では、自転車の移動でゆっくり時間が流れ、電車でゆっくり移動、ナローモビリティもいっぱい走っていて、お店では太陽光のエネルギーで充電する。商店街の中に

ナローモビリティが停まれるようにする。優先スペースとか新しい新庁舎の中にもナローモビリティが停まれるようにするなど具体的に低炭素型の移動をまちづくりと一緒に考えるのもアイデアであると思う。

(委員)

東京に住んでいるお客様で、実家の方が亡くなったので、定年退職後桐生へ移住する方の工事を請け負っている。また、今日も別件で、年老いたので桐生へ移住したいと言っている方の相談にのっている。その方は、今乗っている車を処分して、桐生では小さな車に買い替えようとしている。都内と比べて桐生は軽自動車が増えている。年齢が高くなって移住してくる人が多いことを感じる。サービスとして小型モビリティを案内できると普及がしやすいと思う。

(会長)

定住と移動手段はセットで考えると良いと思う。次世代自動車や電動モビリティと定住の視点も大事である。桐生に魅了され梅田に移り住んだ方もいる。

移住してきた方に、どうして桐生を選んだか聞けると面白いと思う。

(会長)

サルビアをみんなで見る仕組みとして、サルビアの写真を募集してはどうか。桐生タイムスと一緒に企画するなど次につなげていきたい。この活動は、1年で終わってはいけない。

できた種をみんなで集めるなどつなげる仕組みを考えていきたい。

(委員)

未来創生塾において、サルビアの協力はできると思う。佐羽委員のようにサルビアやまち歩きの雰囲気づくりが大切なことであると感じる。

具体的に何か危機感を感じさせるのもよいが、市内外の人が見てわかるもので、定量的な何かわかるものがないと評価されないと思う。

ゆっくりズムを理解している一部の人は豊かになると思うが、それでは普及しない。

地方都市では車の数が多い。利用を減らすことが良くわかりやすい取り組みだと思う。

利用数を減らしてまちを歩くことで、心が豊かになると思う。また、連なって定量的になると思う。

(会長)

商店街にサルビアを植え、買い物客が駐車場に車を置いて歩いていくことができれば良いと感じる。

(委員)

仕事をしている人は車の利用からの転換は難しいと思う。土日を歩く日にするなど、車を使わなかった人にインセンティブがあると良いと思う。

(会 長)

サルビアが咲く時期に商店街でマップを作るとか、スタンプラリーなど実施できればと思う。

(委 員)

未来創生塾では以前歩いて半径500mを買い物する取り組みを実施していた。休日に車を使わないことにつながっている。親子であえて商店街を歩くことの楽しさや、親子との会話により貴重な時間が流れた。サルビアを見ながらそういうプランもできると思う。

(委 員)

まちの中に花とか緑があるというのがゆっくりズムにふさわしいまちであると思う。

また、川や水路がある。楽しんでもらえる資源が桐生にはある。

気づいてもらうことの手段として、今15分都市とか1キロ歩くと用が足りるまちづくりがなされているところもある。コンパクトシティに繋がっていくと思う。

そういう街にしようとみんなで話を進めていかないと、計画だけのまちになってしまう。コンパクトシティの計画はあっても意味がない。

サルビアの花を植えたり、水路歩きを行いつつセンセーショナルに伝えていかなくてはならない。

(会 長)

サルビアを植えただけではなく、その裏に仕組みづくりがある。

コンパクトシティづくりにつながると思う。また、低炭素につながると思う。その後ろにあるものを皆さんに伝えていかなくてはならないと感じる。

(委 員)

郊外にスーパーマーケットと言っている場合ではない。そういうことを協議会からも発信しなくてはならない

(委 員)

商店街として、サルビアを植えてみんなで歩くことは、すごく良いことと思う。だが、それだけでは弱い。重伝建に選定されて10年経つと思う。ようやく整備が進んできている。完成すると本町1、2丁目ゾーン30になると聞いている。そのため、本町3丁目から6丁目までもゾーン30にしていこうとすると一番のアピールにつながると思う。

サルビアと合わせていけば桐生のまちが『ゆっくりズムのまち』となり、本町通りはゾーン30となり、いつかは月に1回は歩行者天国を実施していく。コンパクトシティにつながり人も増え、まち中をトランジットモールがはしる。自動車等の乗り入れがないようなまちになる。こうなるとより桐生が魅力的なまちになると思う。人が来て移住化が進むと思う。

(会 長)

大きな紙に未来の桐生の姿を描いてみてはどうか。いろんな要素を入れ込むと良い。サルビアを咲かせたり、こういうまちになればこういう人が増えるといったように、みんなが共通してもてるこのまちのイメージ図があると良いと思う。SDGs未来都市に選定された桐生の姿を描きたい。

(委 員)

山口晃さんの絵がまさにそうだと思う。まさにトランジットモールの絵を具現化した将来の桐生のまちだと思う。目標に押し進めていけば良いと思う。

(委 員)

プランターで車道を狭めて、歩道との間に自転車を通し、真ん中にトランジットモールを通すような思い切った絵を描くとよい。具体的なものを描くと批判も出るが、環境先進都市であればそのような形にして、社会的費用が負担されていないものをきちんと負担できる社会にしていかないと残っていけない。具体的な絵を見せてやっていく。嫌な人は桐生に住まないと思う。

(会 長)

そういうことに魅力を感じる人が定住していくと思う。具体的なイメージづくりが重要と思う。そういうことを議論していきたい。

(委 員)

商店街にサルビアをプランターへ植えることについて、水やりは毎日大変だと思う。いつまでやるという計画性がないと物事ははっきりしないと思う。

(委 員)

商店街は植え込みもあるが、県道になるので群馬県が管理となってしまう。プランターは商店街で管理しているものであり、協力を各商店に願います。どのくらいのタイミングで水をあげて良いかわからないので配布時に一緒に知らせてほしい。

(委 員)

どういう肥料をどれくらいあげるのか、水はどれくらい必要なのか、目安を作ってあげると良いと思う。

(委 員)

花や緑を楽しむことができるまちづくりに協賛する市民にまずは配ると良いと思う。

(会 長)

まずは商店街で協賛してくれるところに配り、余るようであれば、タイムスや市がサルビアの苗の里親を募集するなど仕組みづくりができれば良いと思う。

植えた後、種が採れれば、また来年植えることができる。今回は市の予算で種を購入した。継続的に数年間は予算取りをお願いしたい。循環できるように持続できるように何年か続けていくことが重要と感じる。

(委員)

この趣旨に賛同してくれる市民に配って、繰り返しやってもらうことが重要だと思う。桐生市民はまだ車中心の生活をしている人が多いと感じる。駐車場がないとけしからんとなるので、そうじゃないことを会議所が率先してアピールするのがすごく大事だと思う。産業界からやってもらいたい。

(会長)

小学生や中学生と一緒にやると良いと思う。市内の企業がやるとか、賛同してくれるところを募集してやっていくことが重要と考える。また、新庁舎ができれば周りにサルビアがあるようにしてほしい。今から調整をお願いしたい。市民運動につなげていきたい。

(委員)

市の広報きりゅうで募集してはどうか。市民になぜサルビアを植えているのか、育て方をPRすることができればよいと思う。毎月少しのコーナーでもあれば良いと思う。刷り込まれると思う。

(事務局)

広報きりゅうであれば周知は可能と考える。実効性として、市民をどう巻き込んでいくか、市だけでは非常に弱いところである。そのため皆様のご協力が必要である。

(副会長)

ゆいのイベントで配布することは可能である。趣旨を説明できれば良いと思う。桐生タイムスなど利用して周知し、7月中旬頃に配布できれば良いと考える。

(委員)

小学生が夏休みの宿題でやっている朝顔の栽培を、サルビアに換えてはどうか。

(会長)

いろいろな機会を絡めていくと良いと思う。サルビアがたくさん咲いたら写真コンテストを実施するとか、オープンガーデンにするとか小学校ごとに研究してもらおうとか、様々な事と絡められると思う。

(会長)

SDGs 未来都市に選定されたことについて、キックオフイベントはないのか。

(事務局)

イベントを9月に実施する予定である。環境課もイベントには参加予定となる。出展に際して案があればご意見いただきたい。

(会 長)

プランターを持ち込んで、市の花サルビアを周知できると思う。サルビアマップを作っ
てまちなかを歩いてもらうことも良いと思う。具体案を次回の委員会までにできれば検討
したい。

(会 長)

ロゴマークについて、ロゴマークを使うことで発展することができると思う。具体的
には市民の方に募集してみてもどうか。桐ペイとやり方を同じにしてはどうか。

(事務局)

桐ペイと同じやり方であれば可能である。ただし、時間を要する可能性がある。

(委 員)

時間がかかっても良いと思う。その間も啓蒙活動になる。

(会 長)

少し時間かかってもよいと思う。今年度中にはできるとよいと思う。

(委 員)

SDGs 未来都市に選定されたことを市民に啓発できれば良いと思う。市民の人がどこ
かに関わられるようにしていくと良いと思う。サルビアや、交通、バイオマスでも自分に興
味をもつところにその人が参加したらそれは『ゆっくりズム』の運動の一部になると理解
してもらえれば良いと思う。いろいろな人がモザイク的に関わっていくと広がっていくと思
う。

(会 長)

ゆいが昨年子供向けにSDGs 100日チャレンジ活動を実施していた。

(委 員)

子供はSDGs をすりこまれている。学校の現場でもとりあげている。企業が取り組ん
でいるのは、ある種の切迫感というか、やらないと置いていかれるからである。SDGs
に子供達は興味をもっている。SDGs 未来都市と『ゆっくりズム』を子供たちに広げて
いくと、将来的にもものすごく重要であると思う。

(会 長)

市民の人がSDGs を理解し、何番のゴールに取り組めたかなど、分かり易くなると良

いと思う。

SDG s 未来都市の活動はどのように評価されるのか。SDG s 未来都市としてどのように行政として進めていくのか次回までに確認して欲しい。

(委員)

インスタグラムやフェイスブックに#タグをつけて桐生サルビアや桐生SDG s を付けてコマーシャルをするのも良いと思う。

(委員)

桐生のインスタグラムは「桐撮り」というアカウント名でやっている。

(委員)

建築住宅課で実施している住宅リフォーム補助金について、事業が終わる時期が早い。1年間待ってもらう方もいるので、年2回に申請時期を分けてほしい。

(事務局)

担当課へご意見を伝える。

(委員)

『ゆっくりズムのまち桐生』をまちのスローガンとしていくと市民の決意として伝わると思う。

(委員)

SDG s 未来都市の提案書に掲げている取り組み事項はやらないといけないと思う。また、これらが達成できれば『ゆっくりズムのまち桐生』になると思う。

(委員)

桐生では、重伝建以外の古い家が壊されている。築年数の多い家について、保存するための新たな補助金をつけてほしい。残すべき財産であり単純なリフォームではないと思う。

(事務局)

担当課へご意見を伝える。

(会長)

SDG s 未来都市をつくるにあたっては担当課だけではなく、横串を通してやらなくてはならないと思う。本日の意見を整理し、協議会は次回10月頃を予定し、「未来の環境の集い」は11月25日を予定している。ワーキンググループについては、7月終わりから8月初めに都合つく方で良いので実施したい。事務局はサルビア配布の実績などまとめてほしい。

(委 員)

SDG s 未来都市の計画を作った担当課から考え方の説明を聞きたい。次回会議に出席して欲しい。

(会 長)

11月開催予定の「未来の環境の集い」の中で、市のほうからも市民に『ゆっくりズムのまち桐生』の趣旨説明をお願いしたい。

—以上—